

総務企画委員会行政視察報告書

報告者名	委員長 吉川 茂樹
視察日	① 令和4年7月13日(水)～② 令和4年7月14日(木)
視察場所	① 福岡県久留米市 / ② 福岡県筑後市
参加者	吉川 茂樹(委員長)、飯阪 光典(副委員長)、 早乙女 実、関戸 繁樹、山本 秀明、末下 広幸、井阪 雄大 (随員:事務局 西垣 聡)
視察項目	① 避難所におけるWi-Fiの活用について ② 定住促進の取組みについて

所 感

① 7月13日(水) 福岡県久留米市
～避難所におけるWi-Fiの活用について～

● 久留米市の概要

人口 約302,000人
世帯数 約138,500世帯
面積 約230km²

● 視察内容

・避難所運営について

地域との協働による避難所の運営体制を構築することで、より迅速な開設や円滑な運営を目指して取り組んでおられる。また、住民が避難所運営に関わることによって職員の負担軽減も考えておられる。

運営については、「市職員2名+校区1名」or「市職員1名+校区1名」の選択制を導入しており、経費負担についても以下のような設定で運用されている。

避難所従事者数(事務局職員以外も可)と従事時間数
負担金単価 1,700円/1h

協働で行う際の手法については、市と校区コミュニティ組織による避難所開設・運営に関する「協定」の締結を行い、運用を図られている。

また和泉市との違いを大きく感じるところは、避難所の多さがあげられる。市域で142か所の避難所設定があり、災害の種類(地震、台風、土砂、水害)によって開設がなされている。



・避難所での Wi-Fi ルーターの活用について

令和3年8月、トヨタカローラ福岡(株)及び(株)モバイル・プランニングより、災害時の拠点施設や避難所等で使用できる、モバイル Wi-Fi ルーターの寄贈、通信料の無償提供の申し出を受けられ活用に至っておられる。

活用方法は、水害時に開設する避難所50箇所への配備をベースとし、施設の Wi-Fi 環境が整備されている場合は、避難者が多い避難所へ複数配備するように計画されている。

・その他、防災・減災への取り組み

チャットボットの取り組み・・・専用の LINE アカウントを活用し、被害情報の投稿・共有するシステム。道路の冠水、土砂崩れの状況、通行止めなどの情報を、写真撮影し投稿。市内の地図にマーカーしてシステム利用者が閲覧、一目で確認することが出来るもの。

web 版ハザードマップの作製…これまで任意地点の詳細を確認することが難しかったが、web 版ハザードマップの導入で次に掲げるメリットがあると説明をいただいた。

①検索性…外出先や土地勘のない場所での避難所の検索や浸水想定区域等の確認が可能。

②詳細の確認…任意の地点クリックで、各河川と高潮の想定浸水深を1ミリレンジで確認することが可能。

③一覧性…レイヤは自由に切り替え可能。各ハザードマップを重ねて表示できるので一覧性に優れる。

● 和泉市で考えられること

久留米市は、主に河川の災害対策について取り組まれているように思う。本市との違いは、災害の種類であるように思う。しかしながら避難所の在り方については、情報の収集が重要である。これからの社会にあっては Wi-Fi 環境の整備は当然のことだと思うし、今後はその環境の使い方を模索しなければならないように思う。



また、Wi-Fi 環境がダウンした時のことを考えると、衛星無線の導入なども視野に入れて行かなければならないと感じる。

Web 版ハザードマップやペット同伴専用避難所などは、本市においても直ぐにでも検討して取り組んでいくべきであると思う。

今回、久留米市職員の方から色々とお教わりしました。ありがとうございました。

② 7月14日（木）福岡県筑後市
～定住促進の取組みについて～

● 筑後市の概要

人口 約49,000人
世帯数 約20,300世帯
面積 約42km²

● 視察内容

・ 定住促進事業について

筑後市におかれては、「恋のくに～ひと想うまち筑後～」をキャッチフレーズにさまざまな定住促進施策を展開されている。平成24年度からの第四次筑後市総合計画後期計画において、定住促進を重要な取り組みとして推進され、平成25年3月に筑後市定住促進行動計画を策定して施策をすすめられている。

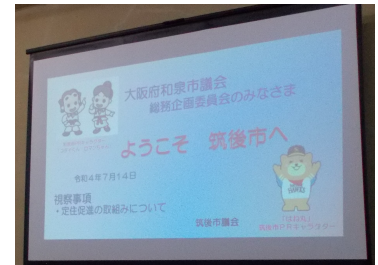
主な定住支援事業は、①結婚サポートセンター事業、②結婚新生活家賃支援事業、③多子出産祝い金事業、④マイホーム取得支援事業、⑤定住促進プロジェクト事業、⑥素敵な出会い応援事業、⑦移住支援補助事業、⑧奨学金返還支援事業である。

予算も令和4年度で、8事業合計、約6,100万円の予算編成で前年より約1,500万円の増である。

今年度においては、八女高校と協働して、PR動画コンテストを実施され、筑後市の魅力を映像により発信するなど、若い世代を巻き込んだ取り組みもされている。

● 和泉市で考えられること

本市でも「トカイナカ」のキャッチフレーズのもと、移住支援をおこなっているが、予算的にも小規模の支援になっているように感じる。



例えば、結婚サポートセンター事業などは、本市での取り組みは無い。筑後市では、婚活イベントの企画、実行、登録会員の管理等、サポートセンター運営一式をNPO法人へ事業委託している。活動内容は、婚活イベントや相談会等を年間10回程度実施、また個別お見合いは随時実施している。

委託予算も年間約200万円である。

和泉市の魅力は何なのか、そしてどう発信していくのか、発信の仕方も考え取り組んでいかなければならない。もう少し特化した施策も必要かと感じる。

今回、筑後市職員の皆さまに大変お世話になりました。ありがとうございました。